



2008年10月7日

ブリヂストン・ANA
共同 プレスリリース



世界初 ボーイング機に最新構造タイヤを採用！

～「ANA グループエコロジープラン 2008-2011」の実現に向けて～

最新構造タイヤが航空機の安全性向上と環境負荷軽減に貢献

ANA グループでは、株式会社ブリヂストン(以下
ブリヂストンという)で開発された、より高い安全性^{*1}と
燃費改善を実現する最新構造タイヤ^{*2}を、世界に
先駆けてボーイング 777-300ER 型機に採用しました。
メインタイヤに装着した初号機は、本日、成田 - 香港
路線に就航しました。



今回装着されるブリヂストンの航空機用タイヤは、

(装着された最新構造タイヤ)

最新ラジアル構造^{*3}(RRR = Revolutionarily Reinforced Radial)を採用し、内部に高弾性・
高強力纖維を用いてより高い安全性を確保すると共に、耐摩耗性の向上による着陸回数の
増加や軽量化による燃料消費量の減少を実現します。この最新構造タイヤをボーイング機で
採用するのは ANA が世界初となります。

ボーイング 777-300ER 型機の主脚には、片側 6 本、合計 12 本のメインタイヤがあり、全数
を従来型のタイヤから交換することにより、約 80 キログラム機体重量^{*4}が軽くなります。

2009 年度 10 月をめどに、長距離運航を行うボーイング 777-300ER 型機 13 機全てに、こ
の最新構造タイヤを順次装着する予定です。タイヤの軽量化により、装着完了後は年間約
105 キロリットル^{*5}(ドラム缶約 530 本)の燃料消費量を削減します。この量は二酸化炭素では
約 260 トン^{*6}の排出量削減となり、杉約 18,400 本^{*7}の 1 年間の二酸化炭素吸収量に相当
します。

ANA グループはブリヂストンを始めとする部品メーカーとの協力により先進の技術を積極的
に採用し、今後も安全で環境にやさしいエアラインを目指して取り組んでまいります。

以上

*1、*2、*3、*4:ブリヂストン同社製品比較

*5:ANA テータ(国際線就航路線および装着予定機材数等)に基づき算出

*6:ANA テータ(全 13 機装着後、2010 年度以降の年間 CO2 削減量)に基づき算出

*7:林野庁ホームページデータ(「身近な二酸化炭素排出量と森林(スキ、人工林)の二酸化炭素吸収量」)より算出